

(2) 留学生派遣及び受け入れのための取組

ア 長期留学生の受け入れについて

2019-20 年度国際ロータリー青少年交換学生として、アメリカ合衆国マサチューセッツ州出身の1名の女子生徒を昨年度2学期から留学生として受け入れた。今年度7月まで受け入れの予定であったが、新型コロナウイルス感染流行のため、3月に帰国を余儀なくされた。短い期間ではあったが、学校の授業や部活動に熱心に取り組み、クラスメートや部活動の仲間との交流を深めた。帰国後も本校の生徒と連絡を取り合っており、将来は再び日本を訪問し、進学することも視野に入れて努力を続けている。

イ 留学に派遣した生徒について

2019-20 年度国際ロータリー青少年交換学生として、昨年度8月から1年間の予定で女子生徒がアメリカ合衆国メリーランド州の高校に留学し、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、今年度4月に帰国した。現地の学校では、授業に加え様々な部活動に積極的に参加した。休みの日には友達と遊んだり、ボランティア活動に参加したりなど、充実した日々を送ることができた。日本に帰ってから引き続き勉学に励み、英語を生かせるように国際系の学部がある大学へ進学することを考えている。



ウ 本年度の成果と課題について

今年度は、新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態に見舞われ、例年本校が利用する海外留学プログラムのほとんどが中止となってしまった。実際、昨年度「第6期トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム高校生コース」に1名応募し、採用された場合には今年度7月から海外へ派遣予定であったが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を踏まえ、採用手続きの中止が決定された。現在、トビタテ！留学 JAPAN や AIG 高校生外交官渡米プログラムなどのように、来年度の募集を開始しているプログラムもある。本校でも例年必ず数人の生徒がこれらのプログラムに応募するが、感染拡大に対してまだまだ不安の残る状況であるということもあり、来年度募集を希望する生徒は今のところまだ一人もいない。このように、今年度は生徒たちが自ら海外へ赴いて国際交流を体験する機会になかなか恵まれなかったが、そのような状況下で新たな留学体験の形として、「オンライン留学体験」を紹介する企業もある。自宅からオンラインで現地語学学校の講師や生徒と交流したり、就業体験をしたりなど、実際に海外へ行かなくても、様々な機会が用意されている。本校でも、1月に第1学年の海外交流委員の生徒たちが、台湾の高校の生徒とオンラインで交流を行った。グループになって英語で会話をしたり、ギターで日本の歌を演奏して披露したりするなどの活動を通して、多くの生徒が国際交流の機会を楽しんだようである。海外留学に関心を持っていた生徒の中には、コロナ禍で留学ができずに学びの場を失ったと感じる生徒もいるかもしれないが、新しい形での学びの場は様々な形で用意されている。本校でも、そのような生徒たちに積極的に情報提供をおこなっていきたいと考える。